

研修のテーマ

I C T を活用した、英語を学びたい意欲の向上と取り組み

- 1. 視察期日 平成 29 年 7 月 18 日 ( 火 )
- 2. 視察場所 福島県耶麻郡猪苗代町立東中学校 授業者 渡部 真喜子 先生
- 3. 研修報告

( 1 ) 研修の概要

どちらの授業でも、I C T を活用して、様々な分野に繋げていた。そして、ほとんど日本語を使わずに英語で授業を進めていたが、どの生徒も意欲的に授業に参加をしていた。そのような授業の進め方の要点を明らかにし、これからの授業改善に役立てていきたい。

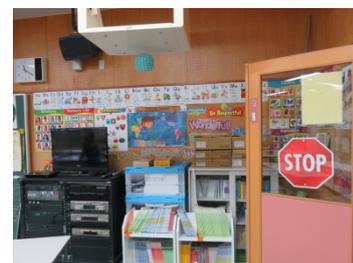
( 2 ) 研修から感じたこと

教科	授業学年	単元名
英語	2 年 1 組	将来の夢
英語	3 年 1 組	先生にインタビューしよう



「子どもたちの意欲を引き出す授業作りの工夫」

授業開始 5 分前には、教科書の中で取り上げられている音楽の動画をスクリーンに映し出して生徒は耳を傾けていた。そのことを通して生徒たちは、無意識のうちに英語を学ぶ姿勢に切り替わったように感じた。授業開始の雰囲気も、スクリーンに映し出されたことについて談笑している姿から、ほどよい緊張感と柔らかい空気が入り混じり、みんながリラックスして臨んでいることが伝わった。例えば 3 年生の授業冒頭では、世界中から人気を博したピコ太郎の動画が流れた。生徒たちは、これから一体何が起ころのか予測できない様子だったが、映像を進めていくとそれはピコ太郎が外務省とタッグを組んだ持続可能な開発目標 (SDGs) 17 課題について取り上げたものだった。私がここで感銘を受けたのは、現代のムーブメントとリンクさせて、尚且つ国際社会について考えさせる場を自然と設けたことだ。新たな英語に触れただけではなく、自分たちも国際社会の一員であるとの意識を芽生え付け、より英語を学ぶ必要性を感じさせる場面であった。



また、教室の環境作りも様々な工夫を凝らしている様子が伺えた。環境作りをする上で、渡部先生のモットーは「目につくものは全て外国産を使う」とのこと。海外で仕入れた教材を使うことによって、より外国語を学ぶ意識を高める効果があるという。英語を学ぶ環境作りは大事にしていると語った。

( 3 ) 研修を通して、自身にとってこれからの課題

英語で授業をする上で学んだことは、子どもたちが理解できる範囲の英語を使うということだ。そのためには、もっと自身の語彙力を増やさなければならないという課題が浮き彫りになった。今後の授業では、生きた英語を授業の中にもっと取り入れ、身近な生活とリンクできる活用場面を与えられるようにしたい。そして何より、どの生徒も活動に参加できるように、子どもの気持ちに寄り添いながら信頼関係を築き、たくさん英語に触れさせ、英語を学ぶことが楽しいと思ってもらえるような授業を進めていけるように工夫していきたい。